

「谷地軌道のむかし・いま・未来」

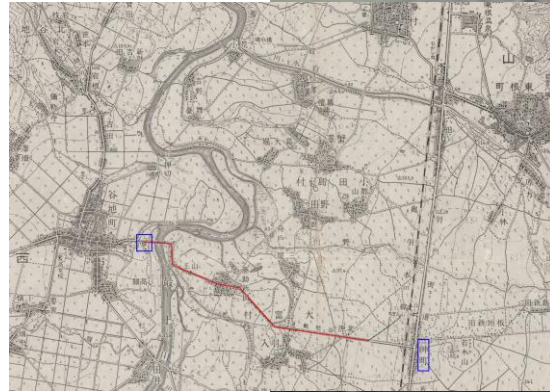
～ 鉄道のない町の未来を創る ～

山形県立谷地高等学校 3年
奥山 昊・佐藤 結衣

少子高齢社会にともない、人口減少がすすむ河北町、そして西村山郡が存続するためには交通の便の良さが欠かせないと考えている。河北町には1916年(大正6年)から1935年(昭和10年)まで鉄道があった。「いもこ列車」とよばれ親しまれた機関車が走る、「**谷地軌道**」である。

1 この探究を始めたきっかけ

「鉄道のないまち」河北町の町おこしのために、私たちは「**谷地軌道**」の復活を考えた。



谷地軌道をLRT (ライトレール・トランジット) (以下LRT) で復活させてはどうか??

谷地軌道をLRT化に向けての課題

- ① 軌道跡地が残っていない。
- ② 膨大な資金が必要になる。(LRTの整備には約30億円/km)

河北町史を読み進めるうちに、山形県の紅花産業の衰退と、養蚕業に必要な桑畑の火災によって、谷地軌道が廃線となったことがわかった。

ノスタルジーでは
「町おこしはできない」

提案1 「谷地軌道をLRT化する」

【 実現可能性の手段として 】

「富山ライトレール」「宇都宮ライトレール」
をモデルとした「谷地LRT」化構想

東根市-河北町間にLRTを通すことで、富山LRTとほぼ同じ全長約8kmとなる。山形空港、新幹線発着駅、高速道路、仙台までの運行バスへの乗り換えも可能であり、通勤通学、観光面においても利用者確保には効果的であると考えた。またさくらんぼ東根駅周辺は宇都宮LRTを参考とすることで観光と接続した「にぎわい」を作れると考えた。

- 【課題】
- ①莫大な予算。LRTの整備には約30億円/km
 - ②鉄道用地の確保
 - ③車両購入や経営のための資金調達
 - ④人材の確保が課題となる。



観光客にも人気の宇都宮LRT（栃木県）

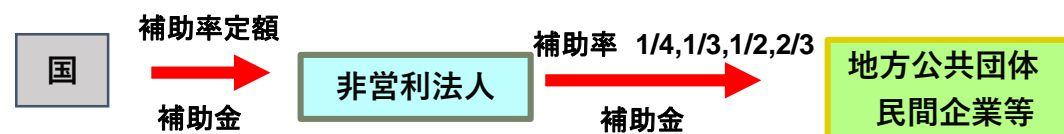


提案2 「谷地軌道をBRT化する」

【 実現可能性の手段として 】

事業スキームとして公設民営化

運営資金は、「国土交通省の地域公共交通確保維持改善事業」を活用する。バス交通の確保維持、バリアフリー化、BRTの整備への補助率は1/2～1/3と大きい。国土交通省の「交通DX・GXによる経営改善支援事業」及び「交通サービス利便向上促進事業」に応募することで実現できると考える。



PTPS（公共車両優先システム）、バス専用道を組み合わせ速達性と定時性の確保ができる。渋滞の解消としては、PTPSとバス専用道を組み合わせ、速達性・定時性の確保ができる。

BRT:柳津～気仙沼（宮城県）



撮影：谷地高（奥山） *写真はすべて私たちの取材での撮影です



2 「BRT」の可能性

BRT = bus rapid transit : バス・ラピッド・トランジット
バス高速輸送システム

利用率が高く、必要性を感じさせる「BRT」として

(1) 発着本数を1時間に最低でも2本 ⇒ 通勤通学時には1時間に2, 3本は欲しい。

(2) 観光資源としてのBRT

⇒ 観光地を周回する。

特に、土日や観光シーズンには本数を増やし、観光コースを兼ねた運行ルートにする。



(3) 周辺市町をつなぐルートの構築

⇒ 通勤通学の便を考え、東根市・山形市・寒河江市をつなぐ。
特に東根市とつなぐことで、山形・仙台へ往来しやすくする。
東根市、山形市からのインバウンド集客を狙う。



(4) バス停留所の可能性 ⇒ **バス停留所に付加価値を創出する。**
観光的な価値+地域の人々の生活や心の拠り所

3 私たちが提案するBRT停留所

「バス・モビリティハブ」

= 「や (すらぎ) ち (かい) ハブ」

場所によっては
コンビニ併設型で
安心安全

ステージの下に非常食や
毛布、飲料水が収納され
ている

太陽光パネル
+ 自家発電装置

だれもが利用しやすい
バリアフリー設計

雪が積もりにくい
温かみのあるかまくらカーブ

シェアサイクルや
カーシェアの
ステーションとの
併設

ライドシェアとの提携
病院との連携で
通院しやすく

観光案内板が
緊急時は災害対応へ

トイレの水洗
は雨水の利用

福祉サービス利用への接続
(移動介助ボランティアへの
連絡と待機・音声案内等)

第1案のやちハブ
デザインに「谷地らしさ」がない



第2案のやちハブ
紅花イメージの色と個性的で実用的なデザイン



4 安心・安全なまちづくりとしての「BRT」の可能性

生活の中での「営み」

- ① シェアサイクルやカーシェアのステーションとの併設
- ② 福祉サービス利用への接続
(移動介助ボランティアへの連絡と待機・音声案内等)
- ③ ライドシェアとの提携
- ④ 病院との連携で通院しやすくする。
- ⑤ 高齢者や障がいのある方が利用しやすい設計

生活の中での

「にぎわい」

- ① 観光案内コーナーの設置
- ② 物販イベント
- ③ コンビニとの併設

生活の中での

「安心・安全」

- ① 防災機能を付加する。
・非常用電源、発電機の設置
- ② 非常食や毛布の設置
- ③ 災害伝言板やラジオの設置

「バス停留所」に新しい機能と価値を創出する

5 「BRT」による持続可能なまちづくりに向けて

人の流れが「未来」を作る！

町に暮らす人々とそのノスタルジーを未来に繋げる

車の利用を抑え、運転手不足を解消する「自動運転バス化」をめざし、交通による安心安全と炭素循環型社会をめざすまちづくりそのものを観光資源とする！